

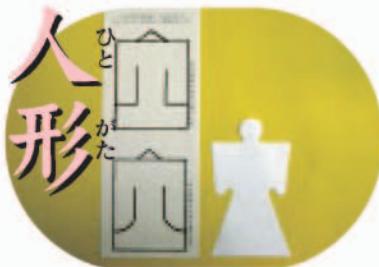
信仰



マコモ刈り場(茅の輪の材料)



茅の輪づくり



夏
越



雷電龍となって昇天する



ウナギとりの唐子



洪水を治めたというヤマタノオロチ伝説

雷神信仰

利根川流域は、古来より水神・雷神の信仰がとても厚い地域です。そして、雷神信仰と大杉信仰地域に大きく二分されています。板倉町の雷電神社は、総本宮です。そして大杉様の総本宮は茨城県稲敷市(旧桜川村)にあります。高瀬舟には、大杉様を祀ることが多かったようですが、雷電信仰としては川俣河岸(明和町)の様子をあらわした絵馬(表紙)の奉納や、「雷電丸」と命名した館林市早川田河岸の例があります。



大杉神社(海老瀬)

大杉雛子の道行き



大杉信仰

文化的景観

谷田川流域の文化的景観

《群馬の水郷域》

飯野の川田

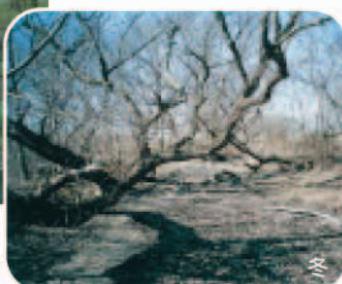


河川敷を利用した掘上げ田

ヤナギ山



周囲に堀を掘り、その土で高く盛土した面を耕作します。耕作面積を増やすための低地の人々の知恵です。しかし、大雨が降り、谷田川の水位が上がるたびに水に浸かってしまいます。



谷田川の中州にあります。昭和の初期まで冬になると挿し木をして、燃料を得るために造林していました。ほとんどがアカメヤナギ(雄一オトコヤナギ)です。昭和30年代後半までは薪として利用していました。

《谷田川下流域》

谷田川サイフォン
(地下水路)



(取水口)

(出水口)



潜り橋(合の川橋)

水に潜った橋(平成14年台風6号)



排水機場の整備によって、
板倉低地は穀倉地帯となる



谷田川第一排水機場



日本で稼動している最古のポンプ(昭和23年製)



大箇野排水機場

(昭和29年製)



平成16年に文化財保護法の改正により、「文化的景観」が、文化財の一つと位置づけられました。「文化的景観」とは人間の手が加わることによって守られてきた「景観」のことです。生業の中から生まれた景観は、人間と自然との織りなすその地域独特の景観をつくりだしています。

それに先だって行われた「農林水産業に関する文化的景観」(文化庁)の調査によって、平成15年、板倉町の谷田川流域は渡良瀬遊水地の複合景観としての重要地域という認定を受けました。

板倉町は、低湿地ゆえの「知恵」と「文化」が息づいた水郷景観を随所にみることができます。

しかし、治水事業などにより、ややもすると「先人の知恵」が忘れ去られたり、荒れ地と化していることも少なくありません。

このありふれた景観の中にこそ、すばらしいものがあります。是非一度地域をみまわしてください。